

三心を磨く

学校だより NO. 14

平成28年 9月9日(金) 発行

須坂市立 東 中学校

文責：興 幸雄 (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

校長講話 9月7日(水)

強い心、強い気持ちをもって臨む

みなさん、おはようございます。

9月に入り、東祭まであと1ヶ月を切りました。本部会を始め、それぞれの委員会、係、学級では、準備に向けた取組が本格化していることと思います。2学期の始業式で話したように、今年の東祭のテーマ「A story we create」のもと、「東祭を成功させる」という一点に向かって全校が一丸となり、熱く燃え上がることを願っています。

さて、本年度の壮行会で、全校のみなさんには、毎回、応援団のリードのもと、胸を熱くする応援をしていただきました。みなさんの応援で、選手のみなさんは、勇気をもって試合に臨めたことと思います。私は、壮行会の激励の言葉として、毎回、「強い心、強い気持ちをもって試合に臨んでほしい」と話してきました。それは、一人の柔道選手との出会いがあったからです。

私は若い頃、スキーが盛んな山間地の学校に勤務していましたが、そんなある日、冬のスキー場で「斉藤仁(さいとう ひとし)」という柔道選手にお会いしました。知っている人は少ないかもしれませんが、斉藤選手といえば、1984年のロサンゼルスオリンピック、1988年のソウルオリンピックの2つのオリンピックで、男子柔道95kg超級の金メダリストです。お会いした当時斉藤選手は、国土舘大学の講師をされており、学生を連れてスキー教室にきていたのです。

その時の斉藤選手は、優勝確実といわれた前年の世界選手権で、反則ぎりぎりの技で敗れたり、けがに悩まされたりしているときでした。世界選手権で敗れたときは、責任をとって本当に引退しようとも考えたそうです。それは、日本チャンピオンは世界チャンピオンでなければならないという強い使命感と、周囲の期待を裏切った自分への責めだそうです。しかし、敗れてみて、自分はここで終わって本当によいのか、一度敗れたくらいで引退してしまうような弱い自分でもよいのかと悩んだそうです。そして、翌年に迫ったソウルオリンピックで、自分の力をもう一度試そうと決意し、練習に励んでいると話してくれました。そのときの斉藤選手の顔は、まさに自分との闘いを決意し、ソウルオリンピックで金メダルを取り、世界チャンピオンになるという強い意思をもった顔でした。帰り際に斉藤選手は「見ていてください。絶対にオリンピックでは金メダルを取ってみせます。」と力強く話してくれ、一枚の色紙を渡してくれました。その色紙には「剛毅木訥」という四つの文字が書かれていました。

家に帰り、意味を調べると、次のように書かれていました。「何のものにもめげぬ強い意思をもち、何にも飾り気のない人は、最高の人徳を備えた人に近い」という意味でした。

世界選手権で反則に近い技で敗れたときも一切の言い訳をせず、引退報道にもコメントをさけ、ただひたすらにソウルオリンピックでの金メダルをめざして努力する斉藤選手ならではの言葉だと思いました。翌年、ソウルオリンピックの表彰式では、約束どおり一番高い表彰台で金メダルを胸にかけた斉藤選手の姿がありました。日の丸を見上げる斉藤選手の顔には、日本チャンピオンとしての役目を果たした安堵感と、様々な困難に打ち勝った自信にあふれていたように覚えています。

人はこれほど強くなれるのか、信念とはいかなる困難をも打ち破る力を与えてくれるものなのかと、表彰台に立つ斉藤選手をテレビで見て考えさせられました。斉藤選手はその後、全日本の監督などをお勤めになりました。一言お祝いを言いたいと思っていたのですが、残念ながら、かなえられませんでした。斉藤選手は、54歳の若さで、昨年、お亡くなりになってしまいました。スキー場での出会いは、まさに、一期一会でした。私は、この「剛毅木訥」という言葉を、今でも大切にしています。

みなさん。私たちは、何かを願うとき一生懸命に努力しようと決意します。その決意が強ければ強いほど、苦しい練習にも困難にも耐えることができます。しかし、その決意が中途半端で弱い場合は、困難に打ち勝つことはできません。本当に勝ちたいと願うのであれば、本当に成し遂げたいと願うのであれば、「強い心、強い気持ち」をもって、物事に向かってください。この願いを込めて、私はみなさんに、壮行会で「強い心、強い気持ちを持って臨んでほしい」と話をしてきました。最後に、みなさんに考えて欲しいことがあります。

今年のリオデジャネイロオリンピックで、男子体操の個人総合で、日本の内村選手が、最後の鉄棒の演技で、0.9点以上の大差を大逆転し、優勝しました。みなさんも見たと思いますが、最後の鉄棒の演技は、完璧な演技でした。その逆転された相手が、ウクライナのオレグ・ベルニャエフ選手でした。ベルニャエフ選手は、演技の採点には一切クレームをつけず、内村選手の演技の凄さを褒めたたえたのです。自分も精一杯の努力をしてきて、精一杯の演技をした。しかし、内村選手には届かなかったことを、素直に認めて受け入れたのです。ある解説者は、次のように言っていました。「ここで採点にクレームをつけるようであれば、ベルニャエフは、ここまでの選手。しかし彼は、一切のクレームをつけず採点を受け入れた。間違いなくベルニャエフは強くなる」と。

みなさん、このベルニャエフ選手の心のあり方、なぜこの解説者は、「なぜ、間違いなくベルニャエフは強くなる」と言い切ったのか、考えてみてください。

資源回収の報告とお礼

8月20日（土）に行われました資源回収では皆様に多大なるご協力をいただき本当にありがとうございました。おかげさまで多くの収益をあげることができました。収益金のご報告をいたします。収益金は生徒の活動資金や学校の施設費等として有効に利用していきたいと思えます。また、収益金の一部を使って車椅子を購入し、生徒会で交流のある須坂荘さんへ贈らせていただきます。東祭で贈呈式を行います。ご承知おきください。

【収益金内訳】

品別	質量	換金額
紙類	37,430 kg	273,120 円
アルミ缶	700 kg	3,500 円
ビン類（ケース含む）		24,267 円
合計		332,387 円
須坂市からの資源回収報償金		195,697 円
合計収益金額		528,084 円

【中山勇輝 生徒会長より】

早朝より資源回収にご協力いただきありがとうございました。多くの保護者の方、地域の方と協力して資源回収を進めることができました。

これからもよろしくお願ひします。

【目黒葉一朗 町別生徒会長より】

地域の方のご協力のおかげで無事資源回収を終え、多くの収益をあげることができました。ありがとうございました。